

日本の伝統文化「いけばな」 流派をこえて共通認識をもつ時代に

出席者

佐伯 一甫

吉田 泰巳
(嵯峨御流神戸司所長・兵庫県いけばな協会相談役)

中山 景甫
(未生流中山文甫会長・兵庫県いけばな協会会長)

肥原 碩甫

西谷 広円斎
(未生流家元・兵庫県いけばな協会副会長)

梅田 一甫

梅田 一甫
(御室流副華務長・兵庫県いけばな協会事務局長)

昭和二十九(一九五四)年に創立された兵庫県いけばな協会は、今年、創立五〇周年を迎えた。流派を越えて、県内のみならず全国のいけばな振興に貢献し、また社会事業にも取り組んできた兵庫県いけばな協会の歩み、いけばな界の現状、そしてこれから夢を語つていただいた。

いけばな界をまとめた 小原豊雲先生の指導力

梅田 まず、兵庫県いけばな協会創立当時のお話を始めたいと思います。現在の会員の先生方の中でも、創立当時からおられる方はそう多くはいらっしゃいませんし、本日の出席者の中にもおられません。従いまして聞かれたお話をよいかと思いますので、まず吉田先生の方から、初代会長である小原豊雲先生の時代のお話を聞いていただきたいと思います。

吉田 私の父が、よく、いけばな協会の会合の後で、母にその話をしておりまして、それをふすま越しに聞いておりました。創立のきっかけとしては、まず、兵庫県教育委員会の細井卓也さんという方が、兵庫県美術展(県展)の中で、いけばな展をしたいということです、いろいろと調査したりはたらきかけたりなさった結果、小原豊雲先生のもとにお願いに行かれたそうです。しかしあるいはな界というのは、ご存じのとおり流派によつていろいろな思いがあり、商売敵でもありますなかなかまとまらない。小原先生は当時、全国でのいけばな協会ということも考えていただけれど無理だと、まして兵庫県ではとても無理だとおっしゃいましたが、細井さんは方には、それでも何とかということで、二・三回、小原先生を訪ねられたそうです。結果、始めは慎重だった小原先生も、細井さんの熱意に打たれて、一度やつてみようということになつたようです。

佐伯 当時、先代家元は京都に住んでおりましたが、細井さんは協会設立協力依頼のために、わざわざ京都まで足を運んでいただきました。とても大変だったんだというお話を聞きました。

吉田 第一回の兵庫県いけばな展は、神戸大丸で、四十数流派の代表が集まつて開催されたと聞いております。当時は、小原先生は会長ではなく幹事長という名前でしたのがちに会長に就任され、副会長に広瀬勝代先生、そしてここにおられる肥原先生の父上でおられます。当時は、小原先生は会長ではなく幹事長という名前でしたのがちに会長に就任され、副会長に広瀬勝代先生、そしてここにおられる肥原先生、相談役に、中山景甫先生の父上でおられる中山景甫先生が就任されました。発足当時はいけばな界でもいろいろと大変だったようですが、小原先生、肥原先生、中山先生、そして吉川秋堂先生と、また神戸新聞社の当時の局長であつた国分さん、兵庫県教育委員会の課長などが、いろいろな面でご尽力なさつた



梅田一甫さん

西谷広円斎さん

肥原碩甫さん

中山景甫さん

吉田泰巳さん

佐伯一甫さん

と聞いています。

西谷 広瀬先生のご尽力のお話もよく聞いています。事実、神戸の料亭「清雅荘」で創立総会記念で撮影された写真も残っております。兵庫県、神戸新聞社などのいろいろなご尽力と、話し合いがあつたようですね。お話を聞く中で、やはり発会当時の大変さはよく感じました。我々が三代にわたって会長とのつながりを持ち、グループ意識の中で勉強させていただいた中でも、いけばなが趣味の段階から事業をするという段階に大きく分かれた時期ではなかつたかと思います。

梅田 昭和二十九年の創立当時は、前衛いけばなが華やかなりし時だつたのではないかですか。

中山 私は協会が創立されて四、五年たつてから入会しましたので、当時相談役だった父が協会のことを話していたのが最初の思い出です。会合というより、よく料理屋などで宴会があつて、その宴席で、小原先生ともお会いしました。

佐伯 発会当時は皆さんが集まつて、よく飲まれたようですね。

肥原 酒席の思い出はたくさんあるようですね（笑）。

吉田 小原豊雲先生の最大の功績は、まとまりにくいいけばなの世界を、やはり強烈なりーダーシップでまとめて上げてくださつたことではないでしょうか。その次の会長だった肥原康甫先生の時代は、その当時若手であつたぼくらを伸ばしていただいた時代じゃないかと思います。若手が伸びるようにしていただきましたね。

西谷 肥原先生にはよく飲みに連れて行っていただきましたね。非常に温厚なイギリス紳士で、ダンスも上手でいらっしゃいました。

佐伯 あいさつだけして、あとは好きなようにやりなさいという感じでしたね。

中山 ある程度役員に任せて、私はトップにいて責任はどうりますという方でした。我々は文句をつけられたことはまずなかつたですね。

吉田 肥原会長時代がなかつたら、今の協会はないと言つても過言ではないと思います。

西谷 いちばん活動的な時代でした。いけばな界も全盛を迎えていた時代でした。

梅田 三代目は西村雲華先生が会長になられました。

吉田 小原、肥原時代につちかわれたものが花開いた

ときですね、協会自体が、
の平和賞を「たどりきました」。

梅田 次に、布藤虚生先生が会長に就任され、私が理

事にさせていただいたのもこの時期です。

吉田 この時代、軒事をできるだけ若手は作るよ」という動きがあったときですね。

中山 布藤先生は、当時あつた「ぞくの会」という若

手のメンバーが集まつてできたいけばなのグルーブ

はぜひ布藤さんが会長にと推薦しましたね。

肥原 西村先生の時代から、協会もいろいろな事業を

行なうようになりましたね。兵庫県いけはな協会ならではの事業なども多いですね。

梅田　ボランティア活動なども行ないましたね。老人

ホームや障害を持つ人々の施設等に訪問する「花慰

問、協会の周年ごとに行なう兵庫県・神戸市等の施設への「記念植樹」も現在まで続いています。

讀書會

世代交代、震災、花博、時代

吉田 平成元（一九八九）年以降、佐伯先生が会長に就任する。

なられて、その後ぼくが会長をして、次に中山先生、

卷之三

会
年) 年) 年) 年) 年))

文協
—
1972
1979
1983
1988
1993
1998
現在

会長年～年～年～年～年～

いは
歴代
年
1954
年
1973
年
1979
年
1984
年
1989
年
1994
年
1999

庫縣
一勝
豐雲
(
康甫
(
雲華
(
虛生
(
一甫
(
泰巳
(
景甫
(

兵小原肥原西村布藤佐伯吉田中山

卷之三

この時代になつてくると、強烈なリーダーシップといふことはなくなつてきましたね。というのも、創立時のメンバーがほとんど卒業してしまって、世代交代が実現したのだと思うんです。今度はほくらの時代が終わるわけだから（笑）、そうなつたときに、ほくらも小原先生や肥原先生を見習つていかなくてはいけないと思いますね。

梅田 続いてお話の方は、現在のお話になつていくわけですが。佐伯先生の会長時代はいかがでしたか。

佐伯 第一回ふれあいの祭典が平成元年に行なわれて、それ以降兵庫県下各地で毎年開催し、今日まで続いており、これまでごとごと成功していることは嬉しい限りです。悲しかったのは、小原夏樹さんが亡くなられたことですね。会員ではありませんでしたが、期待したい方でしたから。

吉田 この時代から、いけばな界自体が、流派数も減つてきて、淘汰されてきましたね。いちばん多いときで、八十三〜四流派ありました。しかし佐伯先生の時代から、ふれあいの祭典、兵庫県いけばな芸術文化振興会議へとつながり、本当の意味でいけばな協会が一致団結したときでしたね。

中山 いちばんの思い出は、パリ島への研修旅行でした。参加者も多く、とても盛り上つて、これも会長の人徳ですね。会員間の輪も広がり、団結心が出てきたときですね。

梅田 続いて吉田先生が会長になり、幹事を複数制になりました。

中山 行革の時代ですね。阪神・淡路大震災もありました。

吉田 每年大丸で展覧会をしてきて、地震があつて、大丸では無理そうだと、でもこんなときだからこそやらなくてはと思いましたね。個人的なことをいうと、あの年の2月に、有楽町阪急で嵯峨御流神戸司所の展覧会をしたんですよ。必死になつてしまつたけどね、あの地震のときは、ものすごく力が入つてしまつたよね。火事場の馬鹿力というのかな、できないことができるんですね。

中山 今だから正直に言うと、あのときは一年間くらい活動中止だと思いましたよね。展覧会のための会議に出るのも、電車がなくて会場に出かけるのに二時間くらいかかりました。

佐伯 あの年は、全員の会費も無料にして、よくがんばりましたよね。

梅田 そして、現在まで続く中山会長の時代に引き継がれたわけですが。

中山 仕事始めが、淡路花博（二〇〇〇年）でした。無事に済んで、自分なりの言い方をすればうまくいったなと思います。私の任期の最後のしめくくりは、今年五月に行なわれた創立五〇周年記念展でした。五年前の四五周年のときは親を引っ張り出したのだから、今度は子供を引っ張り出そうという意見が出て、四五歳以下の若手華道家の作品を中心とした花展にしました。遠くは仙台からご来館くださった若手作家もおられ、正直言つてこんなにたくさんの方にご協力いただけたとは思っていませんでしたから、皆さんにはとても感謝している次第です。

吉田 淡路花博は、いけばな協会としても大きな仕事をしたね。やはり兵庫県いけばな協会が世間に認知され、当時の貝原兵庫県知事もいけばな協会を頼りにしてくれたということでしょうね。もうひとつ、肥原康甫先生の時代に、自由にしなさいといってぼくらを育ってくれたように、中山先生の時代に、若手が動き出

したと思うんです。若手が仕事をはじめた。そういう意味で、未来に橋渡しができたのではないかと思いますよ。

「いけばな学」を実現したい

梅田 それでは未来のお話、今後のいけばな協会の方

向性についていかがでしょうか。

肥原 例えば、京都のいけばな協会でも、若手に代わっていっている。兵庫県でもそういうことを考えにくべきでしょうね。兵庫県いけばな協会は五十年といふことで、成熟のとき、それぞれの委員会の活動もマニアック通りにいけばうまくはいきますが、現在、いけばなを取り巻いている環境が、あまり思わしくないですから、そんな今までの路線を、再検討していくことも大切ではないでしょうか。

吉田 神戸には、商売の世界でいえばアンテナショップというものが多く、神戸で試してみて、うまくいったら全国発信しようという多くのある。日本のいけばな界のことを考えていく中で、兵庫県いけばな協会がアンテナショップの役割を果たしていくはどうでしょうか。それに、ぼくがいまにしつこく思い続けている「いけばなミュージアム」を、ぜひやりとげたい。同時に、今現在「いけばな学」のようなものがなければいけないです。いけばなは女・子供のやるものだということになってしまつたのは明治以降、婦女教育の中にいけばなが取り入れられ、女性がいけばなをするようになつてからです。それはいけばなにとってはいいこと



兵庫県いけばな協会創立50周年記念展
(丸ミュージアム KOBE)

いわけです。いけばなは女・子供のやるものだということになつてしまつたのは明治以降、婦女教育の中にいけばなが取り入れられ、女性がいけばなをするようになつてからです。それはいけばなにとってはいいこと

だつたのですが、花嫁修業という形になつて他のアートの世界に比べてちがう目で見られるようになつてしまつた。でも最近では花嫁修業といけばなは完全結びつかなくなつてしまい、それでいけばな界が伸びていくのも難しくなりました。それではどうしたらよいか

といえば、やはり「いけばなというものがどういうものか」ということを、我々自身もきちんと知つておかなければ、なぜここでこうなるのかがわかるのではないか、そういうことを考えていくときではないかと思います。それでかまわないんだけれど、共通する部分もあるでしょう。その共通した部分を集めて、いろいろ研究すれば、なぜここでこうなるのかがわかるのではないか、派がいろいろあって、考え方方がちがうわけで、それは

肥原 今、伝統文化の子ども教室の開催を、国が援助しようという動きがありますよね。教育の現場でいけばなを取り上げてもらうにあたつて必要な、共通したいけばなの歴史学というものがない。それぞれの流派の歴史、美学はあるけれど、誰もが納得する共通の歴史などを、きちんと確立していかないと、教育現場で取り上げてくれと言つてもなかなか難しいし、問題がある。

吉田 歴史の中で右か左かわからぬところは、いろいろな説があるとしておけばいいわけで、これとひとつに決めなくてはならないことはないんですから。肥原 現在、若者がいけばなから離れていると、どこの流派も老年層ばかり目立つといつていますが、協会も流派の上に成り立つている。共通の「いけばな学」をまとめるのは難しいことだと思いますけれど、それに取り組まなかつたら流派も、協会もなくなつてしまうという危機感があります。

吉田 これは、それそれでも考えていることだと思うんです。でもそれを、共通の場で議論したり考えたりするところがあまりない。肥原 今の若い人、と言う年代に我々もなつてしまつたわけだけど（笑）、今の若年層は、日本の伝統文化というものからかなり遠ざかっているような気もします。

吉田 すね。

吉田 なんか近づきにくい、別世界みたいに思つてゐるのかなあ。昔は下駄箱の上にお花があつたり、「いけばな」というものが割と身近にあつたでしょう。今はいけばな 자체が身近でなくなつてきているのです。肥原 そうなると、展覧会のあり方も問題ですね。百貨店の催場での展覧会で「いけばな展」を見ても遠い存在なのかもしれない。もっと身近な「いけばな展」ができるらと思います。

梅田 そうですね。先程、「伝統文化子ども教室」という話が出来ましたがその点についてはいかがですか。佐伯 それはもう充実したらしいと思いますが、やはり流派によつても得手、不得手があるのでしょう。かんたんに生けられるのはいいですが、それではおもしろみがないのではないかと思いますね。やはり苦労して少しづつ学んでいく、ひとつの一ドルを越えていくようなことが、伝統芸術が必要なのではないかと思います。

梅田 国がこういった事業をするというのは初めてのことです、今のところ申請団体に講師料、花材費、会場使用料などの補助金がいただけるそうです。それを見逃して行く手はないのではないかと私は思うのですが。

中山 文化庁提案の「伝統文化子ども教室」が、一定の期間継続的に教えに行くということですので、まずいろいろな流派があつて誰が行くのかというのが難しい問題でしようね。そのへんをどうクリアしていくか、協会でも何らかの方針を考えないといけませんね。

西谷 幼児教育というのは大変難しく、それ以前の家庭環境もありますし、人間性のある教育といつても幅が広くななか難しいわけですが、幼児教育というものに、やつと国や県が動き出したなと思います。私も昔 教壇に立つたことがあるんですけど、そのときに女子に、あなたたちは新しい生命を生む可能性を持っているのだから、自分の感性というものを通して勉強して自分を創り上げて、それが家庭教育につながつていくのではないかと話しました。現代のさまざま

事件も、そこからつながってしまっているのではないでしようか。

中山 いけばな界に関していえば、体験が足りないのではないかと思います。展覧会でも、ただ生けて見せることだけではなく、その中にデモンストレーション的なことを持ち込んでいくのも未来の展覧会のやり方ではないかと思います。

肥原 展覧会の中で実際に花を生けてもらうという企画をすると、けつこう人が集まり、花を生けます。しかしそれが学ぶ方につながってくるかはわからないけれど、ただ展示するだけではない、何かがほしいということは事実ですね。それから、今なぜいけばなが忘れ去られようとしているかといえば、ひとつに、新聞やテレビ、雑誌などにいけばなの記事が載らない。これは我々の側に問題があるのか、なかなか取り上げられない。

梅田 先日も、ビデオ撮影をお願いしたのですが、おもしろいものしか撮影しないんですね。

吉田 ただそれも、時代背景が大きく左遷している

7月7日、ホテルオークラ神戸にて

撮影しないんですね。時代背景が大きくなりますが、マスコミは新鮮味、話題性に富んだものだけしか取り上げてくれないようでした。原因はいろいろありますが、結局いけばなは話題性に乏しいからではないでしょ

うか。今後、皆で原因究明し、対処していかなければならぬ問題だと思います。

吉田 今やっている

展覧会で疑問に感じているのは、競い合っているという点です。お花が並んでいて、私が一番だと競い合っているでしよう。従来、床の間のお花が、競い合うということはなかつたと思うんですよ。並んで競い合うという西洋的な考え方の展覧会が、今、人々がいけばなを身近に感じない要素になつてゐるのではないか。マスコミの問題に関しては、この流派載せたらあの流派が文句言つてくるのではないかというのがあるようです。フラワーアレンジメントなどをやつている人は、どんなに取り上げても文句はでないけれど、我々は幸か不幸か組織を持つてゐる。本当はどの流派を載せてもどうぞということでないとだめなんだけれど、お互いに足の引っ張り合いをしてゐる点がありますね。

佐伯 今、伝統文化を理解しようという下地が薄れてきていると思います。それに、例えば踊りではどこかで発表するためにやる、いけばなも家庭で生けるためだけにやるわけではないと思います。やはり展覧会に出したいという思いもあるでしょう。技術的に学ぶ人、趣味的に学ぶ人いろいろあって、そういった下地ができればそれを広げていくことが大切です。先日の五十周年展で若手を呼んだのはとてもよかったです。

吉田 「伝統文化子ども教室」では、何を教えにいくのか、その教えは正しいのか、ある流派では正しいけれどこの流派ではまちがつているというようになつたらどうすればいいのかを考えれば、やはりいけばな人が集まつて、無理やり意志統一をさせることはなきけれど、少なくともこれはいいなと思うことと、誰が考へてもこれは悪いなということくらいは、そんな大枠のことくらいは、そろそろまとめていかないといけないのではと思います。共通認識のあるものを作つていかなくてはならない時代なのではないかという気がしています。それから日本初の「いけばなミュージアム」を、我々の誇りとして、兵庫県に創りたい。具体的な話を早く進めていきたいと思っています。



□ お笑い先生とボランティア・きもの美人対談

二百歳まで 笑って生きよう!

田中くにお vs 池田乃子
(教育評論家)

(パルチーダ2001プロデューサー)



田中さんと池田さんが訪ねたバーは「Mile Stone」。二人の美男子バーテンダーと、ゆかいいな酒飲みが朝まで集まるお店。ご近所からクレームあり(笑)! 営業時間/20:00~翌5:00 ☎078-576-3526

★「商」が「笑」になる

お笑いは関西から

田中 僕は昔から、笑いは関西からしか生まれないといういう持論を持つているのです。商売人の「商」はお笑いの「笑」ということを鉄則に、大阪人は商売をしていきます。だから人を笑わせながら、よいしょして、勉強しながら金儲けをするのです。おだてるのがうまいのですよ。喧嘩になつたときでも、東京の「馬鹿」はどうか冷たいでしょう。大阪の「あほ」の方が温かみがある気がしま

す。関西弁には許せる部分が多いですね。初対面でも親しく話せる大阪人の性格的なものも大きい

でしょうね。尼崎からはたくさん

の芸人が出ています。尼崎とい

う土地は、兵庫県ですが、雰囲気や

のりはほとんど大阪に近いです

ね。全国どこの土地からでも、俳

優は出でます。でもお笑いは絶

対に阪神間から出ますよ。そういう

地盤があるのですから。尼崎も

昔は人口50万人以上の賑やかな都

市だったのが、いまは人口が流出

して、だいぶん減つてきているの

ですよ。もっと魅力のあるまちになつていかなければ駄目なのでしょう。

池田 神戸は上品な人と、気さく

な人とに別れていますが、私はど

ちらかと/orと上品系です。でも

先生のキャラクターも大好きなの

です(笑)。やはりお喋りは頭が

良くなければできないですね。

田中 私の場合、喋り方が少しきついのです。それでもみんなが

面白いと言つて喜んでくれる。人が言えないきついことも、まずはば

と平氣で言つてしまふのですよ。



池田乃子（いけだ・あいこ）きもの講師・メナードフェイシャルエステ講師・エレクトーン奏者・バルチーダ2001代表。幼少より音楽に心を抱き、ピアノ、ハモンドオルガン、琴、胡弓等いろいろな習い事を始める。現在は作詞活動をしながら日本舞踊を意欲的に学ぶ。震災後、人生観が大きく変る。音楽を愛し、人の心を癒し、平和な世の中になってほしいと「バルチーダ2001」を結成。バルチーダはボルトガル語で「出發」。精力的な活動が期待されると、新聞・ラジオ・雑誌に紹介され注目を集める。

池田 私も初めてお会いしたときは、圧倒されてしまつて、怖い感じがしましたね。私がボランティアをはじめたのは震災がきっかけなのです。東方文化芸術団の、第1回の司会者が私だったのです。その後、プロアマの垣根を越えて、メンバーを集めたのですが、現在では登録が70名、そのうち30名ほどの人気が実際に動いています。主に病院、学校ですが、いちばん多いのは老人ホームですね。しかしボランティアで行く老人ホームは、

割と裕福なところが多いのですよ。温泉があつたり、なかにはラウンジがあつたりするところもあります。本来は身寄りのないおじいちゃんおばあちゃんのところに行きたいのですが、どういうわけかそういうところからはシャットアウトされるのです。私自身はそれに矛盾を感じています。ともあれ、自分が心の名指揮者となつて、生活と人生の中で「努力」と「休息」と「楽しみ」の交響曲を聴明に奏でていきたいと思います。

僕も大学の2回生ぐらいまでは、お笑い芸人としてやつっていましたよ。師匠についたわけでもないですし、ひとりの漫談家でしたね。しかしいまの時代、吉本のN S Cでも10代の子達が集まつてくるのですよ。20歳では遅いですね。音楽の世界でも10代の子が歌つて売れるのです。そういう時代なのですよ。私たちの歳になると、どれだけ上手くても駄目ですね。

池田 でも吉本新喜劇でも、若い



田中くにお
教育評論家・尼崎お笑い軍団長
昭和15年7月17日生まれ。
近畿大学卒業。大学1回生の時より
プロの漫談家として松竹芸能に入り、
大阪の角座、新花月、神戸の松竹座
などの寄席に出演。現在、教育評論
家として各市町村の教育委員会の関
係と教師の指導にあたり、教育問題
にも携わる。

★笑わせることの難しさは 樂しませることの嬉しさ

田中 僕はどちらかというと、次から次に仕事を変えたくなるのです。教育評論もそろそろ辞めようかと思っているぐらいですから（笑）。口を使う仕事なら何でもいいのですよ。人を樂しませることができれば言うことないです。でも人を笑わせるということは、本当に難しいことですよ。素人にやり続けられるものではありません。話の持つて行き方によつて、いかに90分間を納得のいく講演にしますかが決まってくるのです。我々プロは、一度失敗すると二度と呼んでもらえないと怖さがありますから。だから一回が勝負です。その一回一回が、評判となつて広まつていくのです。いまではしょっちゅう神戸に来ていますよ。

子ばかりでやつても、あまり面白くないです。

田中 尼崎で「お笑い大賞」というのをやっているのですが、そこには若手の漫才師や落語家が集まつてくるのです。2ヶ月ほど前、集まってきた若い子達をみんな押しおけて、僕が3位になつたのですよ。そのときは「高齢者が3位入賞」といつて、新聞などでも取り上げられましたよ。減茶苦茶うけたのは確かですよ。1位と2位はもちろん若手ですよ。目的は若手を育てる会なので、1位にはなれませんよね。でもいちばんうけたはずですよ。市長賞はもらいましたからね。

池田 私も人間革命しようと決意し、いろいろなことにチャレンジしています。昨年、朝ミユージカルでは下手ながら主役をさせていたきました。今年は大正ロマンで竹久夢二の恋人役をさせてもらっていますよ。以前に先生が「思いついたらすぐにノートにメモするように」と言つていましたよね。私は今、作詞もしているので、実行させていただいています。

田中 私の講演会のネタはほとんど新聞や雑誌なのです。常に新しいネタを持ついかなければ、時代遅れになつて取り残されてしまいますが。司会でもネタがいるでしょ。ネタというのは考へて、ど

んどん広げていくものなのですよ。煙草があれば、その種類を考え、どこの国の煙草か、葉っぱはどうでつくられているのかといった具合にネタはつくられるのです。これは漫才でも講演でも同じです。ひとつのことから、どんなと話を広げていかなければいけません。

池田 私の場合、楽しくお喋りすることが苦手で、専属の司会者が別にいるのですが、田中先生のおしゃべりを聞きながら勉強させてもらっています。

田中 司会にも挑戦すればいいと思ひます。神戸は、震災からの復興は本当に早かつたですよ。そこにこそ、ボランティアの原点があると思うのですよ。地震の年が、神戸のボランティア元年と言えるでしょう。

池田 そうですね。私たちも震災の年からボランティアをはじめて、数々の困難をのりこえることができ、すばらしい人々にめぐり会うこともできました。

★考へていても仕方がない

田中 はじめのひらめきが大切で、新潟は毎晩、スナックや居酒屋に行っています。どれだけ忙しくてもほとんど毎晩どこかで飲んでいますね。とにかくみんなと喋るのが好きなのですよ。その場だ



喫茶「ニーマ」。娘さんが毎日焼くシフォンケーキ＆ワッフルは大好評。営業時間／8:30～18:00 ☎078-579-0703



串かつ「五一」。串かつ全品100円です。野球選手もよく飲みに来ま～す!!営業時間／17:00～23:00 ☎078-578-8751

けで喋って、さっと帰るだけで、その日の疲れやストレスが発散できるのですよ。炉端からショットバーまで、人が集まりお酒が飲めるところならどこでも行きます。

神戸にはいい店が多いですね。昔から外国人の行く店が好きでよく行つていましたよ。店で飲むだけではなく、うちの家にも、たくさん芸人さんが遊びに来るのですよ。ちょうどいま現役で活躍している人たちとは、20歳近く離れているから、相談役みたいなもんですね。現役のタレントがみんな、昔のこと聞きに私のところに来るのです。

池田 先生、人生とはいっても山を繰り返し越えて、いちばん高い山を越えた人が勝利者となりますよね。谷を下るだけの人を敗北者とすると、人生は二通りです。なかには、途中で同じところをぐるぐると回っている人もいます。

先生はこれからどんな生き方をしていくのですか？

田中 僕は二百歳まで生きようと思つているのですよ（笑）。誰しも、人生の岐路には必ず突き当たるものです。岐路に立つたときは、決断がすごく大事なのですよ。

決断は素早くするべきです。物事をいつまでも考えていても一緒です。第一感、ひらめいたことを大切にすれば、それでやって行けるのですよ。そうすれば自然と、それに向かって努力もできるのです。物事、中途半端がいちばん悪い。ひとつのことに向かって、真っ直ぐに突き進まなければいけない。それがゆくゆくは良いことになるのです。信じることが大事。

僕はそうしてやってきました。くよくよ考えても仕方がないじやないですか。人生楽しく生きていかなけば。



第十九回ASAミュージカル公演(第一部)芦屋ルナ大ホール
じしょうホラ男爵のミュージック・ドラマ『大正ロマン歌絵巻』
ミュージック・ドラマ『大正ロマン歌絵巻』
『今日は帝劇、明日は三越』(全2幕)
前売券2000円 当日券2500円

★今年は竹久夢二の恋人役彦乃を演じさせていただきます。
(池田乃子)

神戸の夜を楽しむための遊び方と遊ばせ方

●座談会／神戸の人気ママが語る



撮影／米田英男

神戸のクラブ文化を継承していくたいと奮闘するママたち。かつては、プロ意識の強い、華やかな先輩たちが大勢いた。今、店を經營する立場になり、クラブで働く女性の認識も変化してきたことを実感すると話す。神戸でも指折りの人気クラブのママたちに奮闘記を伺つた。

A いまの神戸の、夜の状況や、景気の問題よりも、いまはうち自分がまだまだ女の子の教育中という感じがしています。でも正直なところ、昔のような粹な遊びをする方や、豪快な遊びをする方が本当に少なくなつたとは思います。私はバブル前から働き、バブル後に経営者になりましたが、お客様の方も変わられ、女の子の質 자체も悪くなつていています。自分自身も、どこかで慣れてしまつている部分はありますね。去年、自分の店が10周年ということもあり、おもてなしという原点に戻り、心新たにさせていただきました。自分自身も少し体を壊し、この4年ほどは休みがちでしたが、お店が残つているだけでも、今の時代があり難いことだと思っています。

B 華やかなプロが多かつた
10年前の神戸の夜

今年は本当の意味で、やり直さなければならぬ年です。こういう会に声をかけていただき、ある意味、お勉強させていただこうと思つて、参加させていただきました。

C うちの店は、毎回ミニーティングする度に、マニュアルが増えいくのですよ。現在約30名の女の子が在籍していますが、ミニーティングには必ず全員に参加してもらっています。言葉として一つひとつ書き出さなければ、なかなかわかつてもらえないのです。腰のおろし方、頭の下げる方から、水割りの作り方など細かい支持までミニユアル化しています。こういう時代ですから、お金を払つて来ていただいているお客様は、癒しを求めていらしています。そのことをわかつてもらうために、繰り返しミーティングしているのです。しかし30名もいると、全然聞いていない子の中にはいますよ。同じ事を何度も言つていますが、それを止めてしまふと、女の子もやつてくれるなくなります。私たちも疲れののですが、これが一生の仕事だと思い、根気よく続けています。私はまだまだ、ママになつて間もないのに、自分で高めています。それが女の子に見せていかなければいけないのだと思つています。それでも「もういいかな」と思う気持ちが出てきて、それがお客様にも

D 私はバブルが弾けてからこの店はまだ、お客様のニーズに対応し切れていないですね。返事をしない子や、「おはようございます」が言えない子もい伝わってしまうこともあります。今年はそういうことがないよううに、私自身も氣を引き締めていかなければと思っています。

E 私はホステス時代が長かったのですが、今回お店をしたことによって、自分がホステスをしてたときはわからなかつたことが、逆の立場になつてよくわかるようになりました。改めてママの苦労がよくわかりましたね(笑)。いまの女の子たちに聞いてみると、ノルマがなく高給などころが働きやすいと言います。逆にお客さんからは、どう会話をいいかわからない女の子が多いと言われます。うちはこじんまりとやつていて、活気のある店にはしていませんが、お客様に来てもらつた限りは、楽しんで帰つてもらいたいのです。いまはまだ自身も勉強中ですね。お客様個々によつて飲み方も違います。落ち着いた感じで飲みたい方もいれば、盛り上がりがつて楽しみたい気分の方もいます。同じお客様でも、日によつて気分は違います。うちの店はまだ、お客様のニーズに対応し切れていないですね。

F 私はバブルが弾けてからこの世界に入りました。いまは常識のない女の子が多いとは感じますね。返事をしない子や、「おはようございます」が言えない子もい



山本和子さん

ますからね。私たちも若いときはそうだったのかもしれないと思ひ、根気よく教育しています。そうしながら自分も勉強しているよう思います。お店としても、女の子が足りないからといって、女の子のレベルを下げるてしまうのは良くないと反省しています。

E 皆さんのが仰っているようなことは、私もひしひしと感じます。私はこの世界に10年前に入ったのですが、10年前は周りにプロがかかったのです。私は、最初はアルバイトで入ったのです。そのときの私の周りにはプロの女性が大勢いて、お客様を遊ばせることが本当に上手でした。きれいというより、華やかな人がたくさんいましたね。いざ指導する側の立場に立つてみると、いまの女の子は、その辺を歩いている女の子がいるように見えます。これだけの給料を払う子だろうかと、正直感じることがあります。その辺りは、私たちが心がけて、女の子たちにも言つていかなければならぬと思ひます。私たちの時代は、何かアドバイスをされるというよりは見て覚えていった感じがします。今

A うちでは新しく来る女の子には、一日体験をしてもらうのです。よそのお店の子には声をかけませんね。辞めてから来てもらうのが、大前提になっていますから。やっぱり女の子は、見た目がきれいで越したことはありませんが、一番大事なのは笑顔ですね。はじめてすぐには、座つていて「おいで」と言われなくとも、「向こうに行け」と言われるような仮面はどうしようもありませんから。まず笑顔から、教育はその後ですね。お箸の持ち方、グラスの持ち方など、細かい教育が必要ですね。髪を搔き上げたその手で、果物を剥く子もいます。ちょっとした気遣いがあるだけで、お客様も気持ちよく飲んでいただけるのです。それこそ百回言つても三日しか保たない子もいるので、毎日のように同じことを繰り返し言つていますね。

B なかには例外もあるのです。が、大抵の場合、面接の段階でいいなあと思つた子は、大体いいで

A うちでは新しく来る女の子には、一日体験をしてもらうのです。よそのお店の子には声をかけませんね。辞めてから来てもらうのが、大前提になっていますから。やっぱり女の子は、見た目がきれいで越したことはありませんが、一番大事なのは笑顔ですね。はじめてすぐには、座つていて「おいで」と言われなくとも、「向こうに行け」と言われるような仮面はどうしようもありませんから。まず笑顔から、教育はその後ですね。お箸の持ち方、グラスの持ち方など、細かい教育が必要ですね。髪を搔き上げたその手で、果物を剥く子もいます。ちょっとした気遣いがあるだけで、お客様も気持ちよく飲んでいただけるのです。それこそ百回言つても三日しか保たない子もいるので、毎日のように同じことを繰り返し言つていますね。

B なかには例外もあるのです。が、大抵の場合、面接の段階でいいなあと思つた子は、大体いいで

C 実際に入つてみないとわからぬ部分はあるのですが、うちでは元気な女の子を望んでいます。見た目だけではなく、一日ではちょっとわからないこともあります。一日、二日では、女の子も緊張している子が多くて、わからぬのですよ。だからせめて一週間、半月ほど様子を見て、こちらから女の子の個性を引き出しあげるようにしています。

B 最近はお金に苦労している子はいませんね。遅刻しても、時給がついてないからいいぐらいに思つてゐる子も多いですよ。

A まず食べ物にも欲がないです。よね。私たちも同伴なんですが、嬉しかつたし、毎日美味しいものが食べれると思つていていたもので、お昼に会社周囲などもしてき



来田えみさん

子たちは、最初から教えなければ駄目ですね。言葉遣いから、態度まで、全部言つてあげなければ駄目なのです。中には見て覚えてくれる子もいますが、そういう子は一握りもないのが現状ですね。

最近の女の子の傾向と プロとしての教育

すね。はじめの頃は、それがあまりわからなかつたのですが、何回も面接しているうちにわかるようになつてきました。うちでは合わないけれど、よそでは合う子もありますよ。そういう子には「うちでは合わないね」という話ををするのですが、大体向こうから辞めていますね。

C 実際に入つてみないとわからぬ部分はあるのですが、うちでは元気な女の子を望んでいます。見た目だけではなく、一日ではちょっとわからないこともあります。一日、二日では、女の子も緊張している子が多くて、わからぬのですよ。だからせめて一週間、半月ほど様子を見て、こちらから女の子の個性を引き出しあげるようにしています。

B 最近はお金に苦労している子はいませんね。遅刻しても、時給がついてないからいいぐらいに思つてゐる子も多いですよ。

A まず食べ物にも欲がないです。よね。私たちも同伴なんですが、嬉しかつたし、毎日美味しいものが食べれると思つていていたもので、お昼に会社周囲などもしてき

ました。それが最近の子はないのですよ。お寿司よりも、ファーストフードでいいという子が多いのです（笑）。どんな食生活をしてきたのだろうと思いますね。

D うちは女の子同士が仲良すぎるぐらい、アットホームな雰囲気なのですよ。とてもいいことではあるのですが、ライバル意識や、自分がいちばんになるといった欲が足りないのです。店のなかで足の引っ張り合いをするよりはいいのですが、バランスが難しいところですね。

E まだ私は数人しか面接していないのですが、10代の女の子で多いのが、はじめの出勤日に連絡なしに来ない子がいるのですよ（笑）。一言「無理です」とか言ってくれればいいのにね。うちの店も和気あいあいとしきているところが、駄目なところでもあるのですよ。

神戸の夜を楽しむための遊び方と遊ばせ方

D いまの子は、自分に欲がない



上田真琴さん

よう見えますね。誰よりもお洒落になろうとか、誰かに憧れたりとか、同伴10回目標にするといつことを考えないようなのです。そういうことを言うと、「そんなことしなければ駄目なのですか？」と言うのですよ（笑）。

A いま思うと、私たちの頃は、最初のうちは着物のローンのため働いていましたよね（笑）。いまは面接の段階で、「貸衣装ありますか？」という子が多いですね。「キャバクラじゃないのよ」と言つて、笑い話によくするのですけどね。

C お洒落をしようという感覚がない子が多いですよね。雑誌を見てもうなりたいと思つたものですが、雑誌もそれほど見ないようです。

A 若くともしつかりしている子も、なにはいるのですよ。家庭環境の差なのでしょうね。一緒に食事に行くとすぐにわかるのです。食べ方、箸の持ち方など、酷い子もいますからね。

C お客様に喋りかけてもらわなければ、お話ししない子も多いですね。喋ってくれる人はいい人、



浜田雅香さん

（新神戸オリエンタルホテル「シユール・レゼール」にて）

喋らない人は嫌な人と、すごくはつきり出ますね。お客様を遊ばせるのではなく、遊ばせもらわないと駄目なのですよ。でもお客様のなかにも、ボトルが減るのが嫌で女の子にお酒を飲ませない人もいるのですよ（笑）。そういうお客様は正直しんどいなあと思しますね。飲みに来た限りは、その場限りでも気分良く遊んで欲しいですね。「みんな飲みなさい」という豪快な人は嬉しいですね。私たちの頃は、お茶なんて飲ませてもらえなかつたですから。

A それが苦ではなかつたのですね。アフターが当たり前の時代もありましたから。今はゴルフだけまわって、同伴はなしというお客様もいますよ。今は切り離して考えられている部分も多いですね。

C 延長するお客様もはじめからわかりますよね。せっかくの時間ですから、女の子も、お客様も楽しく過ごせるのが一番ですよ。



黒木ヒロ子さん

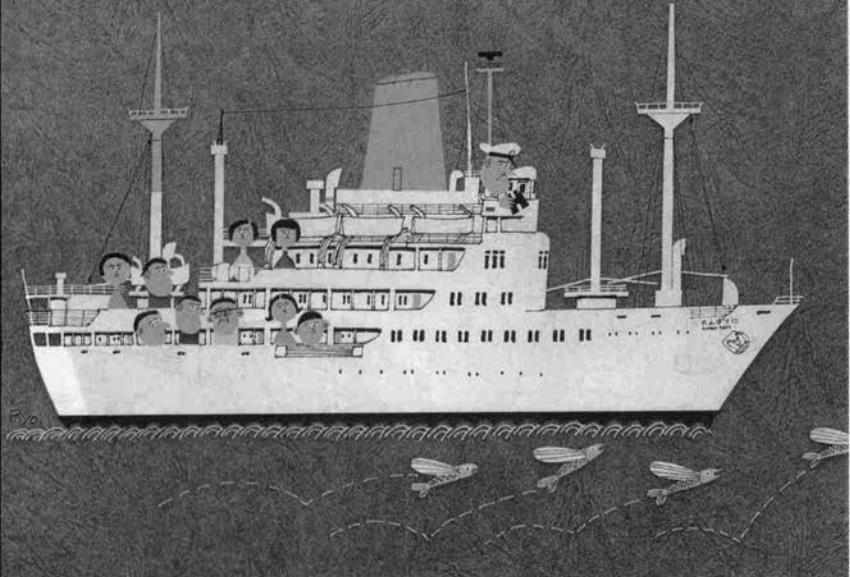
D うちは女の子同士が仲良すぎ

海 船 港

魅力あるウォーターフロントづくり その①

文・上川庄一郎

絵・柳原良平



にっぽん丸

★世界の中の日本、日本の中の神戸
慶応3年12月7日（1868年1月1日）朝、旧生田川尻右岸近く未完成の居留地の一角で、波止場に程近くようやくできあがつた和洋折衷ガラス張りの運上所において開港式が挙行された。当時の兵庫地区は人口は2万の商家を中心とする港町であったが、いま中心部になつてゐる神戸地区は、西国街道沿いに100戸に満たない人口3600人と言われる農漁家があつて、海辺は一部が船入場、他は砂浜にすぎなかつた（『神戸開港百年史』）。

この地域が、従来の神戸区に葺合村、荒田村を編入して神戸市となつたのは、それから21年後の明治22

神戸港は、歴史的にみると古くは大輪田泊として奈良時代の高僧・行基が定めたと言われる。その後も大輪田泊は、数回にわたって修築が行なわれた。ここに目をつけた平清盛は、都を福原に遷すだけではなく、この大輪田泊を大規模に修築して日宋貿易の拠点にし、貿易による利益を一手に握ることになる。今日の神戸の国際貿易港としての地位もこの時期に固まつた。

足利義満は、室町幕府の財政安定のために大輪田泊Ⅱ兵庫津を利用して対明貿易を盛んにしたが、一方では、遣明船もこの兵庫津から多く出帆した。

江戸時代に入ると、菱垣廻船そして灘の酒を江戸に運ぶ樽廻船が盛んになつた。一方で、北陸から山陰沖を通り瀬戸内に入るという西回り航路が発達し北前船が活躍するようになる。こうして繁栄を続ける兵庫津に、江戸中期・高田屋嘉兵衛が淡路の都志（五色町）からやってくる。やがて辰悦丸を建造し、函館から國後、エトロフまでの航路を開拓した。また、幕末には、神戸海軍操練所が開設され、坂本龍馬が、ここでの訓練責任者として勝海舟の片腕となり敏腕を振るつた。

このように古くから海・船・港によって支えられてきた国際港湾都市神戸。ところが、その国際港湾都市の旗印が、今摇らぎ始めている。それでは、そんな国際港湾都市神戸をどのようにして再生したらよいのか、これから五回にわたつて書いてゆくこととしよう。

(1889) 年4月1日のことである。その時の人口 13万4704人。その神戸が、港勢の発展とともに、明治末で40万人の大台を越え、昭和14年には、遂に100万の大台を突破する。戦災により、一時30万人台にまで減少した人口も、昭和30年には元に回復し、震災前の平成6年には過去最高の150万人を超えるところまでになった。

こうして神戸港は、わが国産業経済の発展とともに港勢を伸張し、名実ともに“人”“もの”“情報”すべての港として、日本一の港であるばかりでなく世界の3大港湾にまで成長発展しその名を轟かせた。この頃の神戸港は、まさしく神戸の台所を担う一枚看板で、神戸経済の70%を潤すとまで言われた。したがって、その頃の銀行や損保会社の神戸支店長は、今と違い役員支店長だった。一方では、港の繁栄とともに、鉄鋼、造船業も華やかとなり神戸の絶頂期を迎えることになる。まさに、神戸は、海・船・港によって支えられてきたまちである。

しかし、その神戸港、否日本の港湾にやがて落日の兆しが見え始めてくる。その第一が、航空機時代の到来とともに“人”と“情報”が港から離れていたことであり、次いで、高度成長期を経、自らが“もの”を造らない国になり、生産拠点を東南アジアから中国へと移していく。日本は、物流拠点としての港湾の存在すらも危うくしている。今や、世界の港はアジアに集中し、香港、シンガポール、釜山、上海、高雄、深圳と1から6位まで(2002年)を占めるに至った。神戸をはじめ、日本に58もあるコンテナ港全部合わせても香港やシンガポールの貨物量の2/3、神戸港など5大港合わせてやっと釜山一港分に相当する位でしかない。詳しい数字は紙面の都合で省略するが、惨憺たる数字であることは間違いない。

さらに時は移りバブルが弾け、とする間に、IT革命が起り、日本の頭脳部分はことごとく東京に集中するところとなつていった。さらに加えて、失われた10年といわれる間に、金融機関の大同合併が進み、その資本系列の企業までもが右にならんで東京一極集中

を加速させているのが日本の現状である。これも詳しい数字は紙面の都合で省略させていただくことをお許しいただきたい。

一方、情報産業の世界的に急速な発展・進歩は、空港も情報の港ではなくなりつつあるということである。アメリカやヨーロッパでは、航空機も大衆化され、空港も情報の港ではなくなりつつあるということである。アメリカやヨーロッパでは、商業航空を利用しない限り、自家用機時代に入っている。アメリカでは、1万機、ヨーロッパでも数千機保有されているといわれているにも拘らず、相変わらずわが国ではビジネスジェット機の受け入れには消極的である。これでは、生の情報は入ってこない。

このことは、日本での国際的なコンベンション開催回数(2001年)の少なさにも現れているようと思えてならない。すなわち、アジアでは、シンガポールが120回(世界5位)、ソウル109回(同8位)と健闘しているのに比し、東京一極集中が進んでいる日本では、その東京にしてソウルの半分以下の46回(同33位)、大阪20回(同90位)、神戸に至っては13回(同順位不明)と何とも寂しい限りである。

さらに観光面から見ても、日本は大幅な観光輸出大国となっている。2002年に日本を訪れた外国人観光客は、520万人強、これに対して、出国した日本人は、1650万人強と大幅な観光輸出国となっている。これを金額に直すと、3兆6000億円の赤字というからこれまでの大変な数字である。しかも、この少ない来日外国人のうち、神戸にはたったの4・3%(約22万人・全国9位)しか来ていない。これでは、折角の国際港湾都市神戸の看板が泣くというものである。こんな神戸の現状を、どうして再生したらよいのか。次回以降で考えてみたいにしよう。



■ かめかわ しょうじろう
1935年生まれ。神戸大学卒。
神戸市に入り、空港対策室長、消防局長を経て定年退職。現在、関西学院大学、大阪産業大学非常勤講師。

「すべての記憶をよみがえらせる薬」
というのを つくったでしょ
ひとつくださいない
おもいだせないことがあるの



1

わたさないほうか いいんじゃないですか
きっとよけいなことまで おもいだしますよ

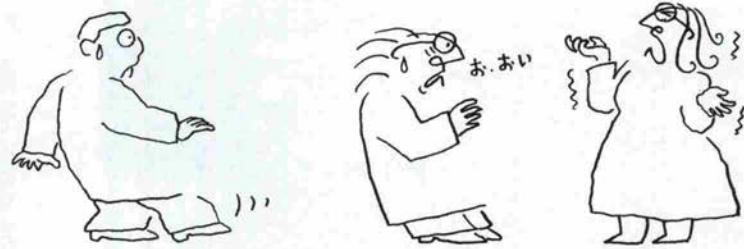


2

ああ これね いただくな



3



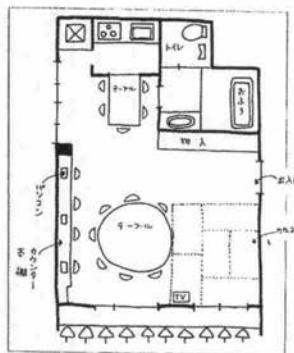
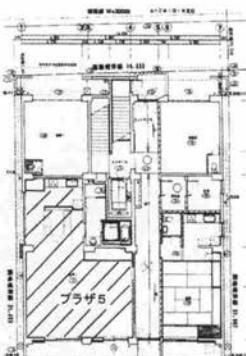
いったい なにを
おもひだしたんだろう



被災地復興に 最も必要な場所



小林郁雄
コー・プラン代表



プラザ5の内部



みくら5と公園



プラザ5 ふれあい喫茶（まちこみHPより）

住宅などを個々に再建するのではなく、敷地を一箇所に集め「共同化」による再建が、多くの震災復興区画整理地区で進められており、神戸市長田区の御菅西地区では共同再建住宅「みくら5」が建設された。

個別では敷地が狭すぎる場合や共同化ビルによる余剰床（保留床）を処分することによる事業費補填などが、共同化のメリットである。実はそれだけではなく、共同化は個々の権利者の合意形成が不可欠な、最も小さな「まちづくり」である。

さらに特徴的なことは、通常の共同住宅（分譲マンションなど）では、共用部分を最小にすることが至上（市場）命令であるが、共同化再建では多くの場合、共用室などが何らかの形で計画される場合が多い。特に、震災復興再建でそうした事例が多く見受けられる。コープラティプ住宅やコレクティブ住宅と同じように。

共同再建住宅「みくら5」では、それは1階に設けられた85m²の「プラザ5」である。ふれあい喫茶、ボランティア・まちづくり学習、お風呂・調理場・会場・宿泊、各種講習などが、「まち・コミュニケーション」を中心とした地域NPO組織によってそこで繰り広げられている、コムニティープラザである。

共同再建住宅「みくら5」では、そこには1階に設けられた85m²の「プラザ5」である。ふれあい喫茶、ボランティア・まちづくり学習、お風呂・調理場・会場・宿泊、各種講習などが、「まち・コミュニケーション」を中心とした地域NPO組織によってそこで繰り広げられている、コムニティープラザである。

住宅などを個々に再建するのではなく、敷地を一箇所に集め「共同化」による再建が、多くの震災復興区画整理地区で進められており、神戸市長田区の御菅西地区では共同再建住宅「みくら5」が建設された。

個別では敷地が狭すぎる場合や共同化ビルによる余剰床（保留床）を処分することによる事業費補填などが、共同化のメリットである。実はそれだけではなく、共同化は個々の権利者の合意形成が不可欠な、最も小さな「まちづくり」である。

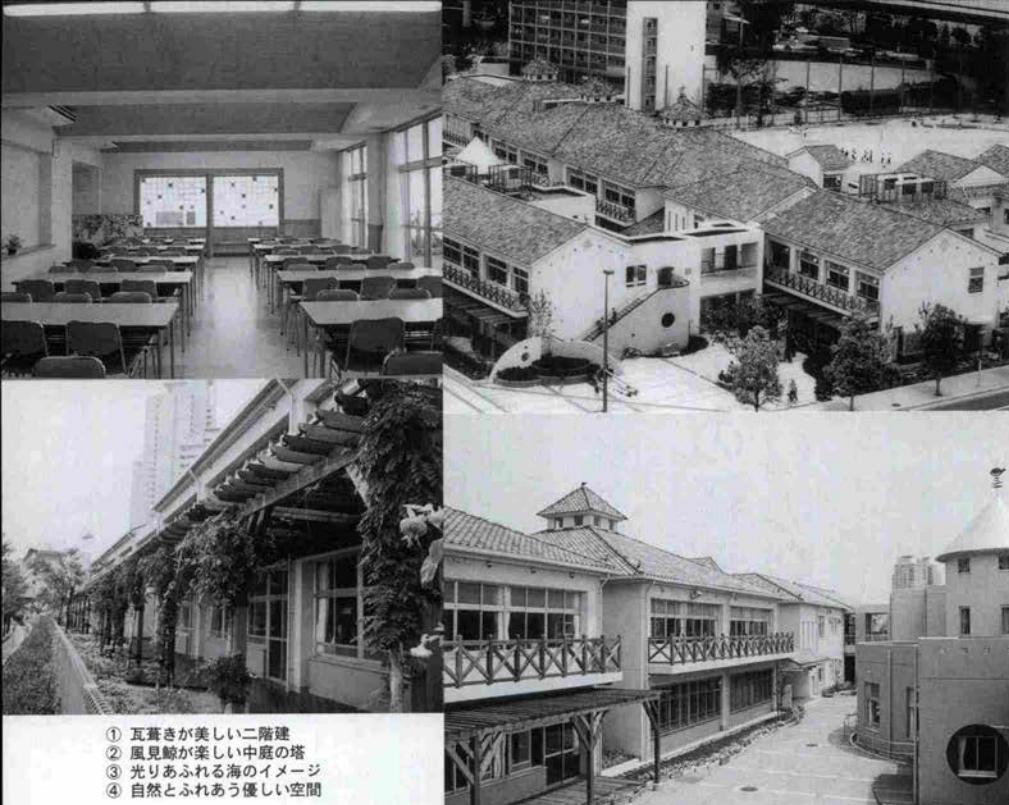
さらに特徴的なことは、通常の共同住宅（分譲マンションなど）では、共用部分を最小にすることが至上（市場）命令であるが、共同化再建では多くの場合、共用室などが何らかの形で計画される場合が多い。特に、震災復興再建でそうした事例が多く見受けられる。コープラティプ住宅やコレクティブ住宅と同じように。

共同再建住宅「みくら5」では、そこには1階に設けられた85m²の「プラザ5」である。ふれあい喫茶、ボランティア・まちづくり学習、お風呂・調理場・会場・宿泊、各種講習などが、「まち・コミュニケーション」を中心とした地域NPO組織によってそこで繰り広げられている、コムニティープラザである。

●女流建築家シリーズ
なぎさ小学校



中川俱子
株式会社アルプラン
代表取締役



- ① 瓦葺きが美しい二階建
- ② 風見鶏が楽しい中庭の塔
- ③ 光りあふれる海のイメージ
- ④ 自然とふれあう優しい空間

三年前に竣工したなぎさ小学校・場所はHAT神戸です。震災後、瓦葺きの建物が減少し、寂しい風景になりました。子供たちに瓦葺きの美しさを知つてもらいたくて、なぎさ小学校は瓦葺きの二階建ての建物にしました。そして屋根の頂上には、うさぎ、はと、りす等のオブジェを乗せました。瓦工場のオーナーの作品です。中庭の塔に、風見鶏ではなく風見鯨をつくりました。

バルコニーの手摺、ルーバーには木材を使い、暖かい手ざわりのある、大きな屋根の大きな家、地域の核となる建物をつくるらうと思いました。

一階のホールに、海をイメージするステンドグラス。光を通して青い影が白い壁に落ちてきます。廊下の片隅にアルコーブを設け、テーブルとベンチを置き、子供たちのおしゃべりコーナーにしました。中廊下にはトップライト。光と風が抜けるさわやかなスペースです。

一階の低学年の教室の前にパーゴラと木製テッキ、ぶどうやキウイを植えました。

敷地が狭いので、体育館の屋上に、ブールを設置しました。青空と六甲山を見ながら泳ぐと気持ちいいでしょう。

竣工後、「お会いした校長先生の「大切に維持します。」という言葉、うれしい言葉でした。

創立50周年に向けて
気持ちを新たに



西村 隆治
1945年生まれ。1973年京都大学大学院法医学研究科博士課程卒。
74年沢の鶴株式会社入社。84年、代表取締役社長就任。
神戸経済同友会常任幹事など多数歴任。

神戸JC先輩・後輩対談⑨

JCは若手の経済団体 行動力と辛口の発言力を

西村 隆治

(第24代神戸青年会議所理事長・沢の鶴株式会社代表取締役社長)

キラン・S・セティイ
(2003年度社団法人神戸青年会議所理事長)

たよ(笑)。

震災復興から10年目を迎える2005年に神戸空港が誕生する。20数年前に神戸空港の市会決議白紙撤回を求める運動など、市政に積極的な活動を行なってきたのが、24代理事長の西村隆治氏。一つの経済団体として、その伝統を受け継いで欲しいと話す。

西村 僕は24代の理事長だったのですが、ブレッシャーを感じた記憶はありません。前年から副理事長として空港問題を担当していましたが、「海から空へ」というテーマがすでにありましたし、有識者アンケート等、活動をしていましたから。神戸市議会で空港に対する反対決議がありまし

創立50周年の式典では、懐かしい顔がたくさん集まりましたね。我々は、JCを卒業して長くなりますが、JCで培った考え方方は、常に持っているように思います。

Kiラン 創立45周年式典は、50周年に向けて、気持ちを新たにする場という思いが強かったです。今回の式典には650名ほどの方々に来ていただきました。そのなかで、JCとまったく関係のない人は、たったの10数人でした。そういう意味では、本当にオール神戸JCに絞った会だったと思います。

JC関係以外の多数の方にお越しいただくのは、50周年のときにできればいいと思っています。シニアクラブの皆様にも200名ほど来ていただきました。本当に有り難いことです。いまだから言えますが、大変なブレッシャーでしたよ(笑)。

西村 僕は24代の理事長だったのですが、ブレッシャーを感じた記憶はありません。前年から副理事長として空港問題を担当していましたが、「海から空へ」というテーマがすでにありましたし、有識者アンケート等、活動をしていましたから。神戸市議会で空港に対する反対決議がありまし

たが、その撤回運動の中心にJCがいたのです。3月に請願書を提出したのですが、5月には反対決議が撤回されました。だから僕が理事長の年は、ターゲットが非常にはつきりしていました。

8月には1日から1週間、「JCウイーク・イン・神戸」夏の集い」というのをやりました。翌年からのサマーフォーラムの原型です。各委員会に对外事業をしてもらったりました。空港問題からまちづくりまで、様々な問題をとりあげました。この当事でメンバーが253人でしたね。このJCウイークに向けて、メンバーの例会出席率を上げていきました(笑)。

キラン ここ数年、神戸以外でも、JCメンバーの数は減っていく傾



キラン・S・セディ
ピッツバーグ大学経営学修士修得。㈱ジュピターイン
ターナショナルコーポレーション取締役専務。2003年度、(社)神戸青年会議所第45代理事長。

向にあると思うのです。全国でも5万人を切っています。神戸だけを見ても、世界会議の頃は450人近くのメンバーがいたのが、いまは250名ほどです。今年はメンバー拡大の活動をしたのですが、経済環境も含めて、積極的に全員が活動してくれるとは限りません。

減っていくのはなぜかと考えると、いまは昔に比べると、NPOなど様々な他団体ができています。商品とを考えると、それだけ競争力が上がっていることになります。JCだけに参加している人も少ない

と思うのです。だから出席率も70%前後といったところでしょうか。西村 例会出席率については、僕が現役の頃でも、いい年もあれば悪い年もありました。あまり難しく言わなくてもいいのではないかという気はしています。例会より

西村 経済団体として社会活動をしていくという視点は、大事だと思いますね。若手の経済団体などで、他の団体から見ると、やはり行動力と辛口の発言が、期待されていると思います。

キラン 先輩たちがはじめた空港の問題に関しては、まちの有効な資産としての空港を、どう利用するかを議論していきたい。

西村 私も理事長をやる前の1980年に、都市開発の委員長をやらせてもらったのです。提言をいくつかしたぐらいのものですが、そのなかで「パークシティ神戸」というものを提言したのです。後の「ガーデンシティ」と同じ発想ですね。そのときに「都市開発をする心」について、みんなといろな議論をしたのです。

も委員会の方が問題ですね。委員会にもまったく出てきていないと

いう人は、友人関係が形成されていないと思います。それはちょっと

もつたいないと思いますね。た

だ会員が減少傾向にあることは、

なにか考えていかなければならぬのでしょうね。JCとして質のいい活動を続けていくことが大事だと思います。

キラン それと、JCを経済団体として、再認識してもらいたいのです。横のネットワークを広げていきたいのです。

西村 経済団体として社会活動をしていくという視点は、大事だと思いますね。若手の経済団体などで、他の団体から見ると、やはり行動力と辛口の発言が、期待され

ていると思います。

キラン 先輩たちがはじめた空港

の問題に関しては、まちの有効な資産としての空港を、どう利用するかを議論していきたい。

西村 私も理事長をやる前の19



対談を終えて握手する西村社長とキラン理事長。沢の鶴株式会社にて。

いま僕は灘区のまちづくり委員会に入っており、また「酒蔵のみ」づくりをしていますが、その基礎をJCで勉強させてもらったと思います。

自然とまちへの感謝の気持ちが大切

キラン 昨年、夏から5月に移つ

た神戸まつりの代わりに、神戸港に感謝をささげ、さらなる繁栄を祈念するために「みなとまつり」を立ち上げたのです。それを継続させていく意味でも、今年はJCで型をつくり、来年以降、誰かが引き継いでいけるような祭にしていきたいと思っていますよ。

西村 ウォーターフロント開発も、商工会議所の運動の原点になっていますから。これから盛り上がりしていくのではないかと思います。



神戸空港の市会決議白紙撤回を訴える市民集会

神戸まつりも、「神なき祭でいいじゃないか」という意見もありますが、大事なことは、自然に感謝するということだったと思うのです。ただ集まって騒ぐだけでは本

当に意味がないですよね。もう亡くなられた方なのですが、世界中を回っていたある商社の方が「世界で一番良いところは、地中海とリオデジヤネイロ、そして阪神間」だと言つておられました。それが僕にとっては非常に印象的でした。

そういう意味もあって、家族交流事業をメンバーに企画してもらうことになりました。子供と触れ合う機会をつくって、それが青少年事業の新たな一步になると思うのです。

西村 それから、教育問題の他に、

もう一つ取り組んでもらいたい事として、行政改革、地方分権の問題があります。日本JCが一番やらないければなりません。JCのメンバーは、レベルの高い人が集まっています。分権は進んでいきますから、その時にどうしていくのかを考えなければなりません。JCのメンバーは、レベルの高い人が集まっていると、僕は思っていますから、他ではできない提言をしていくってほしいですね。

キラン 僕らが子供のときに、親がしてくれたことを、いまの小学生はやつてもうっていないように思うのです。子を持つ親にもっとまちのことを知つてほしいですね。

西村 いまのJCが取り組むべき問題のひとつに、教育問題があると思うのです。何らかの形で、教育問題に対し、JCから辛口の提言をしてほしいのです。

キラン 今年は、具体的な青少年育成事業がないのです。それには理由があつて、子供たちの前にまず親に教育への意識をしてほしいという思いの方が強かったからなのです。それも人の親に何かを言う前に、まずはメンバーから認識していってほしいのです。

そういう意味もあって、家族交流事業をメンバーに企画してもらうことになりました。子供と触れ合う機会をつくって、それが青少年事業の新たな一步になると思うのです。

西村 それから、教育問題の他に、もう一つ取り組んでもらいたい事として、行政改革、地方分権の問題があります。日本JCが一番やらなければならない問題だと思います。分権は進んでいきますから、その時にどうしていくのかを考えなければなりません。JCのメンバーは、レベルの高い人が集まっています。僕は思っていますから、他ではできない提言をしていくってほしいですね。

隠れ家的なお店づくりをめざして 「神戸六花仙」で奮闘する若女将

神戸六花仙 女将 神崎恵子さん



旬の食材を使つた天ぷら料理の

お店「神戸六花仙」。現在、若女将として奮闘するのが、神崎恵子さん。「神戸六花仙」に彩りを加える神崎さんにお店づくりの期待を伺つた。

一 飲食業につかれたきっかけはどういうところにありますか

神崎 知人を通じて5月からこちらで働くことになりました。元々、飲食業には興味があり、学生時代のアルバイトも就職先も飲食業でした。10年ほど企画会社に勤めたことが大きな転機になりました。

その時に、淡路島の漁港のプラン

ド戦略に携わってきました。淡路島は魚の宝庫です。漁港でとれる魚はほぼ全種類食べてみましたね。魚は料理によっていろいろな食べ方があるのです。魚料理に関するノウハウを身につけましたが、今度は、実際に魚の料理をお客様に召し上がっていただきたいと考えるようになつたのです。

一 六花仙のメニューで工夫されていることはありますか

神崎 現在、いろんな方のニーズにあわせて、メニューにないお料理もお出ししています。天ぷら懐石がメインですが、その他、焼

き魚や肉料理などもあります。今後は、季節の素材を使つた一品料理などを増やしていくたいですね。また、食べたいなと思わせるメニュー。目に見えて訴えるようなものもこれから必要ではないかと思っています。まだまだ知名度が低いので、これからどんどん増やしていきたいですね。お料理が好き、食べることが好き、そういう方にゆっくり時間をかけて、ゆとりをもったサービスをしていくたいと思っています。本当においしいものを食べて喜んでくださるときの笑顔というのは、何事にも得がたいものです。お客様にとって、隠れ家的なお店になればと思っています。

神戸六花仙
神戸市中央区加納町4-18-15
AMUプラザ1F
☎ 078-1333-16613



天ぷらをメインにしたコース料理

**大人の感性と子供の感性を融合させ
ファーストイ・ンブレッショーンを形にする**

カフェやレストランの展開に新風を吹き込む(株)ボトマック。
“トゥーストゥース”といえば、今や新しい神戸のブランドとして脚光をあびる。
金指社長が肌で感じた感覚をそのまま空間づくりに活かしている。

次代を創る⑩ 金指光司
神戸のユーリーダー

株式会社ボトマック
代表取締役

金指 光司 (かなさし こうじ)

1963年神戸市生まれ。

84年兵庫県立兵庫工業高校卒業後、大阪デザインモデルセンター、
株若草を経て、86年「レストランバー・トゥーストゥース」開業。
99年株式会社ボトマックに組織変更及び商号変更。



震災を期に 食とサブカルチャーの融合

この3年間ほどで、都会のレスランの様子が、随分変わってきましたと思います。細かいデザインや自然の取り入れ方、グラフィック、食器類など、いろいろと変わっています。四角いお皿なども当たり前のようになってきましたからね。どのように流行を感じ取るのかと、よく聞かれるのですが、それは好きだからという以外にありません。車好きの人は、車についてとても詳しいですよね、それと同じことなのですよ。人から見れば勉強しているのかも知れませんが、自然に情報が入ってくるのですよ。

震災がいちばんの変化になりましたね。震災以前は、トゥーストウースの周りには、写真のギャラリー・バーなど、トアウェストの成り立ちに近い、サブカルチャーの店が多かったのですよ。ですからお客様も、業界の人など、ストリートカルチャーが好きなコアな人たちが集まっていたように思います。ところが震災でうちの周りの店がつぶれてしまったのです。トゥーストウース本店だけが残り、せっかく残ったのだから、そこで

何かやろうと考えたのです。震災から早い段階で店をオープンし、焼き肉定食や鮭定食などを出したのですが、コアなお客さんではなく、おじいちゃんやおばあちゃん、家族連れなどが来てすごく喜んでくれるのです。そのうちコーヒーを出し、ケーキを出し、普通の飲食店として盛り上がっていったのです。震災を前に、サブカルチャーから飲食に移行したのです。ですから自分たちのコンセプトには、その両方が混在しているのだと思います。震災時には神戸の有名レストランや、ホテルのシェフなど、それまで関わりのなかったスペシャリストとの交流ができました。飲食店であるのに、食に弱かったのが、その辺から、本格的な食へのめり込んでいったのです。

これまでに失敗は、数え切れないほどしてきましたね。商売されている人ならみんな同じでしょうけど、資金繰りには本当に苦労しましたね。（笑）震災後、トゥーストウース 자체が話題になつてきました頃でも、若い人を中心の支持で、銀行などにはまったく信用がありませんでした。あと100万あれば次に進めるのに、その100万を作ることが大変なのですよ。その100万を練り出す努力は、1

億貯めることより大変だと思いましたね。今までに上手くいかず閉めた店もありますしね。海の家などもやったことがあるのですが、その夏はずっと雨で、全然うまくいきませんでした。いろいろなことをやってきましたが、僕はもともと料理もできませんでしたから、プロデューサーやディレクターなどと言つて、要は雑用ばかりしてきたのですよ（笑）。

感動を形にして伝える最初の気持ちが大切

僕は神戸生まれの神戸育ちなのであります。若いときの神戸には、格好良いと思った大人の人がいましたね。しかしその雰囲気とか、遊び方とかに憧れていた部分と、ああはなりたくないといった反面教師的な部分があるように思います。どこか極端な人が多かつたように思います。僕ならもっと面白い仕事をすると思つていましたね。いま神戸にいる、僕が格好いいと思う人は、みんなバランスが良いです。全国で、30代で、飲食業の分野で目立つてきている人は、みんなつながつてくるのですが、みんなどこかしら似ているのですよ。みんな結局、熱いし、冷めて

いるのですよ。

震災以降、トゥーストウースのテーマは、フランスの地方料理だったのです。それでヌーベルバーグ映画など、フランスの文化にはまたのです。フランスにも行き友達も増えていったのですが、向こうのお金持の家は、ほとんどがオーレンタルな雰囲気なのです。西洋人が使うオリエンタルな素材がとても格好良いのですよ。そしてお金持ちは、お茶のこととかも知っているのです。その頃から、そういった雰囲気にはまっていましたね。そして「HASU」が生まれたのですよ。

これは愚痴になってしまいますが、僕らが事業をはじめた頃、神戸で前を走っていた人たち、何も助けてくれませんでした。自分たちのネットワークで何とかしていかなければならなかつたのです。今までこそ「トゥーストウースのケーキ食べたことあるよ」と言つてもらいますが、昔は「若いやつのやることなど知らない」といふ雰囲気でした。自分がそういう経験をしてきてるので、才能のある若い人们には、少しでもチャンスの場をつくりたいとは思っています。それが僕たちの場合は店であつたり、うちで働いても

らうことになります。そういう意味でも東京に出店していきたいのです。やはりやる気があり、能力が高い人ほど、よりポテンシャルの高い場所で働きたいと思います。そこで一緒に夢を見られればいいなあと思うのです。

スタッフに関しては、当然マニュアルやノウハウも必要なですが、いちばん大事な部分はひとり一人が、なぜこの仕事を選んだかということがいちばん大切なのです。僕の場合は、いろいろなレストランに行つて、「美味しかった」とか「格好良かった」といった感動ですね。それを人に伝え、形にしていきたいという欲求です。すべての仕事がマニュアルになってしまって、感動は薄れていってしまいます。いちばん核心の部分で感動できているかが大事なのです。要は初期衝動がいちばん大切なのです。

それと会社の理念をスタッフに浸透させることも大事ですね。ミーティングなど、常に啓蒙させる機会は、多ければ多いほど良いです。それと会社の理念をスタッフに浸透させることも大事ですね。ミーティングなど、常に啓蒙させる機会は、多ければ多いほど良いです。

規模の各ミーティングを、上手くリンクさせていかなければなりません。そしてどれだけ僕の意志を、会社の背骨として通せるかが重要です。僕はチエーン店の理論というものがすごく嫌なのですよ。どこに行つても同じということにも、安全感があるのかも知れませんが、いまは高度成長期のやりかたでは通用しない時代だと思うのです。お店の個性としては、パーソナルな部分が出る方がいいと思うのです。お店のデザインや雰囲気づくりの原案は、ほとんど僕が出してありますね。ロゴや店舗デザインまで、自分のところでやるようにしています。ファーストインプレッションを形にするということは、すごく大事なことだと思います。自分たちの思い入れをどれだけ反映させられるかは、最初の部分で決まります。金銭面の問題だけで作業してしまうと、スピードは速くなりますが、どうしても熱量が下がってしまうのです。

社名のボトマックの由来はジョン・コクトーの最初の詩集から取つてゐるのですよ。ボトマックとは、コクトーが考え出した夢の産物で、架空の怪獣の名前です。後にコク

マイティな活動をしていくのですが、その原点にボトマックがあるのです。大人の感性と、子供の感性が混じり合った、コクターにとてもシンボリックな存在だったようです。これが僕の考え方似ていいいなあ、と思ったのですよ。他の誰も考えつかない、オリジナリティが欲しいですからね。

会社の夢と個人の夢一緒に叶えていきたい

東京進出の話はずっと以前からありました。今期からは東京出店が続くのです。単独でも、百貨

店に入ったり、いろいろなパターンで出店する予定です。いちばん理想的な形は、個店、百貨店、S C、開発といろいろな側面からの進出ですね。最初は主要なスポットからになると思います。

会社の事業規模も大きくなっています。ここまでやってきた以上、社会性のある組織にしていきたいと思っています。会社も生き物ですから、自分より能力のある人間が、受け継いでいるようなものにしていきたいですね。もともとお店でも、50年、100年と続く店をつくりたいと思っています。会社も長生きできる社会性

のあるものになってほしい。そうなると自ずから、夢のある若い人が集まっています。会社の夢と個人の夢を正比例することができます。具体的な青写真とともに、きっちりとした計画が必要ですね。僕自身は、早くリタイアしたいのですけどね（笑）。

仕事をする上で、家族と過ごす時間や、自分の趣味は大事ですね。昭和の働く社長さんのイメージは、家庭を放り出して、会社に時間と注ぎ込み、歳をとつてから若い愛人をつくるようなイメージがありますよね。そういうのは格好悪いと思うのですよ。バランス良く、家族も趣味も大事にしていきたいですね。当然仕事に対してはガツガツしていますが、だからといってプライベートまで犠牲にするつもりはありません。バブル期に青春を過ごしましたが、バブル期の商売とは違い、僕らがやっていることは「ジントニック一杯」からの商売ですから。



今年6月に増床リニューアルオープンしたトゥーストゥース・ダイニングガーデン



機能性、デザインにすぐれたアイテムが揃う（コラボ・ラボ）

株式会社ボトマック
神戸市中央区波止場町2-18
TEL 078-334-11274
<http://www.toothtooth.com>